

## 第23回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 令和3年1月27日（水） 14:00～15:40

【場所】 軽井沢町中央公民館 講義室

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、鈴木幹一委員、須永久委員、  
瀬川智子委員、高尾幸男委員、藤井俊子委員、  
飯塚真由美委員、高橋浩志委員、荻原貴士委員、  
小林広幸委員、瀬原史織委員、森憲之委員、  
柳澤陽平委員

### 内 容

#### 1. 開 会

##### 【導入】

ファシリテーター

コロナ禍においては、収束を待つしかない自治体がほとんどであるが、軽井沢はワーケーションの推進等に力を入れており、アフターコロナへの備えや今できることについて取り組んでいると感じている。

緊急事態宣言下のため、オンラインでの進行となるが、議論が活発化するように努めたい。

#### 2. 会長あいさつ

会 長

コロナ禍においても、オンラインを活用しながら会議を止めないことが大切であり、新しい会議のモデルとして進めていければと考えている。

本日は、プロジェクトチーム（PT）及びエリアデザインの活動状況等を踏まえて、今後の軽井沢の在り方に関する議論を深めていければと思う。よろしくお願ひしたい。

### 3. 議事

#### ○これまでの振り返り

##### ファシリテーター

第3期基本会議では「with コロナ/after コロナ時代のまちづくり～新しい暮らし方・働き方変革と見直し～」を大方針として掲げ、風土フォーラムの精神に基づき、軽井沢の歴史を踏まえながら、50年100年先の軽井沢を意識して議論を進めていくこととなった。

町長からは、基本会議においては事例等を学ぶだけでなく、住民への風土自治の伝導も求められている。基本会議3期6年を総括するようなシンポジウム開催に向けて検討していく。

これまで活動してきた3つのPTを休止し、長期視点に立ったPTとして「風土自治圏を考えるPT（仮称）」を立ち上げた。（正式名称「誇り溢れるふるさと“軽井沢”を目指すPT」）

エリアデザイン検討の取り組みでは、各エリアの特性を踏まえながら、住民自治による活動を広めている。

#### ○プロジェクトチーム活動状況について

##### 座長

「風土自治圏を考えるPT（仮称）」として活動を開始し、11月に開催した初回会議にて今後の活動方針について検討を行い、これまでコミュニティ共創PTで関わりのあった大日向地区で取り組みを始める方向性をまとめた。

第1回会議終了後、Facebookを活用して意見交換を重ね、第2回会議にて正式名称が「誇り溢れるふるさと“軽井沢”を目指すPT」に決定した。

具体的な活動内容を検討するため、大日向地区との少人数による会合実施を目指して大日向区長と調整を進めていたが、年始のコロナ感染拡大等の影響により保留という状況になっている。今後の感染状況等を踏まえ、改めてPT内で検討のうえ、大日向区長と調整を進めたい。

## ○エリアデザイン検討の進捗について

### 委託業者

各エリアにおける運営会議では、地域の将来ビジョンに関する意見の集約に向けて取り組みを進めている。これまでに、新軽井沢、中軽井沢、追分の3エリアで地域会議が開催され、旧軽井沢、南地区においては住民アンケートを実施する予定である。

## ○アフターコロナを見据えた軽井沢の在り方について

### ファシリテーター

#### ■今後の軽井沢の在り方について参考になりそうな都市の紹介

ダボス：ダボスはアクセスの不便さや周辺環境を、「膝を突き合わせて議論を深めるには最適な場所」として、クラウド・シュワブ会長から年次総会開催地として選ばれる。

ニセコ：ニセコは国内有数の通年型観光リゾートとして、国内外から多くの観光客が訪れている。また、2001年には初の自治体基本条例の策定や2014年環境モデル都市への選定など、行政主導の取り組みも進められている。

妙高市：新潟県妙高市では、企画政策課の発案と市長のリーダーシップのもと、地域課題を解決する官民連携プラットフォーム「みょうこうミライ会議」を実施。また、都市部企業、市内事業者・市民、市役所職員の3者が共同で課題解決策の検討を行い、市長へのプレゼンテーションを経て、市の事業・予算へ反映している。

### 【議論】

#### 会長

世界的にも有名な地域の事例を踏まえたうえで、軽井沢らしい内容を検討することが重要である。ツェルマットでは電気自動車しか走らせない等の制限があると思われるが、地元住民はどう考えて暮らしているのかを知ることも必要だと思われる。

コロナ禍ではあるが、軽井沢は移住先に選ばれるという追い風がある。しかしながら、単純な移住の受け皿となるのではなく、環境、

文化、歴史の面で社会情勢を反映した価値を主体的につくり出していく姿勢が重要になる。最終的には住民に還元されるまちづくりが一番大事だと考えている。

#### A委員

ツェルマットを訪問したことがある。歴史が浅いツェルマットの環境が維持されているのは、チューリッヒから2時間以上かかる交通の便が良くない場所にあり、化石燃料で動くものが地域に入らず、電気が通った時に電気自動車に切り替えたという背景がある。農業と宿泊業を主力産業としている場所であるが、住民の総意でCO2を排出しない生活を望んでいるという地域性もある。

#### B委員

軽井沢への移住者の内容を見ると、国際結婚や海外生活の長い方が増えており、グローバル化が進んでいる。これに伴い、町内の不動産産業においては、従業員の英語対応の強化が進められている。

将来の軽井沢を考える際には、グローバル化への対応が求められると思われるが、ターゲットをどこに絞るかが重要だと考えている。現在の住民中心で進めるのか、将来的に住民となる人を対象とするのかについて、会長の考えを踏まえながら、検討していく必要があるのではないか。

#### 会 長

軽井沢の質について考えていくのであれば、滞在型の通年リゾート化、高級化などがキーワードになると思われる。軽井沢における外国人宿泊者数に関するデータ等はあるのか。

#### C委員

外国人宿泊者数に関するデータは把握していない。

#### D委員

シンポジウムでは、SDGs や地球環境問題に関する大きなテーマに加え、日々の暮らしや産業について取り扱えば良いのではないかと。町において、すでに進めているSDGs や地球環境等取り組みがあれば教えていただきたい。

停電問題は大きなテーマである。停電対策に必要となる森林管理

に関連して、二酸化炭素排出や交通問題等につなげられると良いのではないか。

#### 副会長

当町においては、「SDGs 日本モデル」宣言への賛同、「CO2 排出実質ゼロ」宣言を行い、事業を進めている。中長期的な計画を策定し、今年度内に報道発表する予定である。

町内における停電発生の原因については、樹木の適切な管理を怠ったことによる倒木が多い。町としても、別荘所有者に対して適切な樹木の管理を呼び掛けているところではあるが、風土フォーラムでも取り組んでいただければありがたい。

来年度に実施予定のシンポジウムは、住民の自走を促す機会にできればと考えている。

#### E 委員

町では、環境基本条例の策定を進めており、今後、環境基本計画の策定にも取り組んでいく予定である。また、植栽の管理についても検討が進められている。軽井沢町が来る人を選べるまちだとすれば、環境重視のまちとして、軽井沢で暮らすために守って欲しいルールを強く発信していけるのではないか。厳しい制限を設けることで、軽井沢には地球環境に配慮した人たちが増えてくる可能性もある。

ニセコ町では情報発信を徹底している。軽井沢町においても、審議会等の会議に係る議事録を積極的に公開してほしい。

#### F 委員

シンポジウムの構成では、PT やエリアデザインの活動状況等について発表する機会を設けるのか。

#### ファシリテーター

現時点では未定である。風土自治の精神を伝導する機会として、構成をどうするのか検討していく。

#### G 委員

コロナ禍の移住者にとって、軽井沢の自然の中で仕事ができる点が魅力だとすれば、E委員が言うように、町内で生活することに対して多少のハードルを上げなければ、町内の環境に悪影響を与える。軽

井沢の環境を良いと思って暮らしている人たちが、自分たちで環境を壊したあとに「誰がなおすのか」とならないような対策が必要になると思われる。

#### H委員

様々な都市に関するケーススタディを学ぶことは必要であるが、外形を真似するのではなく、都市で暮らす人の内面的な部分の在り方を知ることが重要だと考える。軽井沢は多様性と包摂性のある自由で開かれたまちであって欲しいと思う。

#### C委員

軽井沢のまちづくりが難しい理由は、多様な価値観を持っている人がいることである。行政側がターゲットを絞り切れていない部分があるため、その点を固めていければ良いのではないか。

#### 町 長

シンポジウムの実施を目指して、議論等を進めていただきたい。また、シンポジウムでは、風土自治の伝導役である基本会議委員が多くの住民に問題提起をして欲しいと考えている。

町では、SDGs の内容を政策に落とし込んで事業を進めているところである。先日、テレビで放送された気候変動に関する番組を視聴し、厳しい問題だと感じた。内容は 2030 年までに環境配慮に相当取り組まなくては生物が棲めないような状況になるというものであった。町としては、2050 年の「CO2 排出実質ゼロ」に向けて、新たに政策発表を行う予定で準備している。

コロナ禍により当町の人口は増えている。人口増によって森林が減っていくのは当たり前であるが、その中でも良い自然環境を作っていくことが重要である。中長期的には、人口が減少していくため、今後どのようにまちを活性化していくかが課題であると感じている。

委員より意見のあった議事録公開については、委員のプライバシーについて配慮しながら公開に向けて進めていくこととしたい。

## 4. 閉 会